喜多見慶元寺

2019.04.20

2019.04.20

2019.04.20

永劫山 華林院 慶元寺

浄土宗、京都知恩院の末寺で、本尊は阿弥陀如来坐像である。

当寺は、文治二年(一一八六)三月、江戸太郎重長が今の皇居紅葉山辺に開基した江戸氏の氏寺で、当時は岩戸山大沢院東福寺と号し、天台宗であった。室町時代の中ごろ、江戸氏の木田見(今の喜多見)移居に伴ない氏寺もこの地に移り、その後、天文九年(一五四〇)真蓮社空誉上人が中興開山となり浄土宗に改め、永劫山華林院慶元寺と改称した。

更に文禄二年(一五九三)江戸氏改め喜多見氏初代の若狭守勝忠が再建し、元和二年(一六一六)には永続資糧として五石を寄進し、また、寛永十三年(一六三六)には徳川三代将軍家光より寺禄十石の御朱印地を賜り、以後歴代将軍より朱印状を賜った。

現本堂は享保元年(一七一六)に再建されたもので、現存する区内寺院の本堂では最古の建造物であるといわれている。

墓地には江戸氏喜多見氏の墓があり、本堂には一族の霊牌や開基江戸太郎重長と寺記に記されている木像が安置されている。

山門は宝暦五年(一七五五)に建立されたものであり、また、鐘楼堂は宝暦九年に建立されたものを戦後改修したものである。

境内には喜多見古墳群中の慶元寺三号墳から六号墳まで四基の古墳が現存している。

2019.04.20

永劫山
2019.04.20

慶元寺
2019.04.20

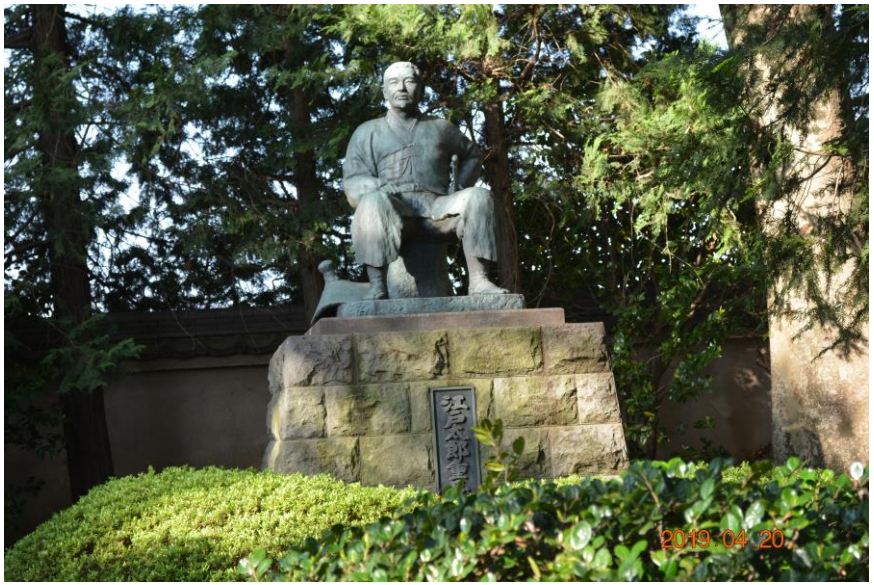
2019.04.20

2019.04.20

2019 04 20

2019 04 20

2019 04 20


2019 04 20

2019.04.20

2019.04.20

2019.04.20

2019.04.20

喜多見氷川神社を参拝して木陰の道を歩いていると
遠くに立派な三重塔が見えた。この塔の場所を探して
歩いていたところ慶元寺にたどり着いた。三重塔はこの
慶元寺の墓地の中にあり、遠くからも目立つ建物であった。
氷川神社を拝観するためにこの近くを散策していたら意外に
多くの神社、仏閣を拝観することができた。かなり歩いた
ものの収穫は大きかった。良しとした！